



題字 藤本利夫書

〈1988年7月9日創刊〉
 発行2019年3月1日 〈毎月1日発行〉
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育110番 077-523-3715
 e-メールshiga.minken@gmail.com
 HP:http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

「自分の頭でものを考えられる」授業に

大津清陵高校馬場分校・西村太志

2月号の森原則男さんの指摘のように、戦後教育は、戦前の画一的・形式的で一方的な知識注入教育の反省からスタートしました。しかし、受験体制が強まる中、画一的・形式的で一方的な知識注入教育に逆行した面があるといわざるを得ないでしょう。戦前との違いは、学問や科学の成果に基づいているか否かで、そのこと自体は非常に重要なことです。しかし、知識注入という面では、同じだと言えないでしょうか。

1月末に大阪で開催された「高校教育シンポジウム」で、パネリストの大学生が「(高校時代)『左翼』の先生の授業で、みんなが右傾化していく」と発言しました。また、記念講演をされた神戸女学院大学の石川康宏さんは「かつて『教え込み』の授業を行って失敗した」とおっしゃっていました。

社会科学教育では、系統的・科学的という名の下に「民主的」な価値を教え込んできたのではないかということが問題になってきました。この大学生の発言は、授業を受けた側からの意見として、今まで以上に重く受け止めるべきだと思えます。

どうしても、「良心的」な教師は、世の中が民主的になることを願って、「教えすぎて」しまう＝啓蒙的になってしまう傾向があるように思います(もちろん、これは私自身の反省でもあります)。しかし、教えたからと言って、生徒たちがそのまま受け取るとは限りませんし、簡単に受け入れた生徒は、簡単に反対側の論理にも共感し、納得するようです。

文科省は、形式に流れる傾向をふまえ、アクティブ・ラーニングを「主体的・対話的で深い学び」と用語を変えました。多くの方が指摘されているよ

うに、「対話」の相手は、級友だけでなく、書物でも、教員でもいいはずですから、講義式授業でもそれは可能だと思います。問題は、事実・根拠を基に自分の頭で考えさせるのか、知識を覚えさせるのかということではないでしょうか。

2020年度から高校社会科に新しい科目が3つ登場します。特に「公共」は、道徳科の高校版として警戒する声が多く聞かれます。生徒の思想・良心と学問の自由を奪う「徳目の教え込み」道徳は論外ですが、「公共」の導入を、啓蒙主義的な授業を改めるチャンスととらえ、今までの実践の蓄積を生かしながら、新しい教育実践をどう切り拓いていくか、が焦点だと思っています。(にしむら ふとし)

《 今月の紙面 》

- ・自分の頭でものを考えられる」授業に/西村 太志……………P 1
- ・校内研究「主体的な学び手の育成」/北川 智明……………P 2. 3
- ・【部会報告】次期学習指導要領「理科」における3つの課題/松宮 敬広……………P 4. 5
- ・平成の30年をどう見るか(上) / 家長 隆……………P 6. 7
- ・【今学校で】今どきの中学生/ 田中貴志……………P 8